

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	グループホーム 木かげ		
所在地	千葉県千葉市緑区土気町1500 - 1		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	平成22年5月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成22年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が決めるのではなく、出来る限り入居者さんに決めて頂けるような話し方を心掛けています。入居者さんやご家族さんとの信頼関係を大切にしています。その為には、些細な事でもご家族さんに連絡をしています。

JR土気駅から徒歩10分の便利な場所にある平屋建てのホームは、広い庭を囲むように2ユニット配置されている。周りは住宅地で、入居者の部屋からは広々とした庭や、木々が見え、リビングは明るく快適である。入居者の思いを大切にして、笑顔で暮らせる生活を作っていくというホームの方針を目指して、全職員が良いチームワークでケアを展開している。困難な事例も、職員間でノートを作り、細かい情報を徹底的に集めるなど試行錯誤しながら、質の高いケアを目標に努力を重ねている。信頼の置ける医療機関と連携できているのも大きな強みである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価(こもれび) および外部評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念は理解はしているが、十分に実施しているとは言えない。	利用者の思いを大切に、笑顔で暮らせる生活を作っていくという思いが、施設職員全体に共有されている。また、理念に向かっていくための全体的な目標と自らが作った毎月の個人目標も設定され、事務所に掲示されている。	理念を共有し実践につなげるために、どうすれば良いのかを今一度考えることも必要かと思われる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方に定期的に来ていただいている。(フラダンス、折り紙)	近隣住民の畑で芋ほり大会をさせてもらったり、かかりつけ医の病院の納涼祭に参加したり、地域に溶け込んだ生活をしている。さまざまなボランティアを受け入れており、中には運営推進会議のメンバーになっている人もいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について勉強会を行ったり、新入社員には業務を通じ、説明を織り交ぜ理解してもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催している。定期的にケア会議・業務会議を実施し、サービス向上に努めている。	運営推進会議は、近隣住民、ボランティアなどがメンバーに入り、2ヶ月に1度おこなわれている。会議の話し合いの中から、職員の休憩所、庭の周りの遊歩道などが作られた。	運営推進会議をより充実させるために、市役所、学校関係者の参加を呼びかけているので、実現につなげることが期待される。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かと、相談している。。	市町村担当者とは、ホーム運営のことや補助金のこと、その他さまざまな情報を教えてもらうなど、良い協力関係ができています。また、ホームで発行している新聞を必ず届け、ホームの様子を伝えている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフ「拘束」については理解している。また、必要以上の施錠はしていない。	玄関には人の出入りが確認できるようにチャイムをつけており、昼間の時間帯は施錠していない。また、「入居者の思いを大切にすること」という理念を実現するために、身体的な拘束のみならず、言葉による抑制などにも注意を払ってケアをしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待」については理解しているが、防止法については、理解しているとは言えない。		

グループホーム木かげ 自己評価(こもれび) ・ 評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない。法律については理解していない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に契約時にホーム長・主任が行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じて、ご本人様やご家族様より意見・要望を伺っている。	家族の来訪時に積極的に意見、要望を聞いている。家族アンケートでも話しやすい、よく聞いてくれるなど肯定的な意見が多い。	家族来訪時に話を聞くだけでは、遠慮なども働く可能性がある。さらに多くの要望、意見を得るための工夫をして、運営に反映させていくことが期待される。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などの際、提案や要望を聞いている。	職員は管理者、主任、リーダーに話しやすいという認識を持っている。また管理者、主任、リーダーは日々職員の様子を見ながら積極的に声かけをしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員を査定し、能力別に評価している。主にホーム長・主任が行っている。職員が働きやすい環境を整備している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、ホーム内で勉強会を実施しているが、外での研修には積極的には参加していない。また、個々の能力の把握はあまり出来ていない。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	身内での勉強会のみである。現状、同業者との交流は皆無である。		

グループホーム木かげ 自己評価(こもれび) ・ 評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人から伺ったり、日々の生活の過ごし方から感じとるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>必要に応じて、ご家族様に伺ったりする。(面会時・電話など)</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その場面に応じ、ご家族・ご本人から伺いつつスタッフ間で話し合い変更・決定していく。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>出来ている。日々の生活を通し、コミュニケーションをとったり、接することで少しずつ築いていけるように、務める。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>必要に応じて、相談・連絡している。(月に1度、手紙や写真を郵送している)</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>以前は出来ていたが、現在はほとんど出来ていない。</p>	<p>地域密着型の施設であっても、近隣に自宅がある入居者は少ないという実情がある。しかし、中には自宅に帰ったり、友人宅に遊びに行ったり、友人が来訪することもあり、馴染みの関係を継続できるように支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>仲の良い方同士ではよく談笑されるが、そうでない方にはスタッフが話をするが、十分に出来ているとはいえない。</p>		

グループホーム木かげ 自己評価(こもれび)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一部の入居者さんのみ、出来ている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	状況に応じてご本人から伺ったり、日々の生活から判断する。また、スタッフ間で話し合い決めている。	入居時に本人と家族から情報を収集し、入居後は、日々の会話や、仕草・反応から入居者の希望や思いを汲み取るようにしている。職員全員で入居者のことを考えようと始めた自由帳に、気の付いたことをいつでも書き込めるようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活を、ホームでの生活に可能な限り反映出来る様に努めている。(思い入れのある家具の持ち込みなど。)		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主にアセスメントシートにまとめ、定期的に修正・追記している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケース会議を実施している。時々ご家族さんにも参加して頂き、その場で意見・要望を聞いている。	入居者のニーズを把握しやすくした独自のアセスメントシートは随時追記している。ケース会議の前には入居者の情報を全職員から集め、会議の資料として利用し、介護計画に反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	話し合いをしている。過程や結果を記録に詳しく残せていないこともある。また、スタッフ間で細かい所までは共有出来ないこともある。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援内容に問題・支障がでた場合、ご家族に相談し検討している。		

グループホーム木かげ 自己評価(こもれび) ・ 評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニなどに買い物に行っていたり、散歩をしたりしている。また、車で出掛けたりしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に武村内科医院に受診している。異常があれば、電話で相談し必要に応じて受診する。	ホームの思いを理解してくれている協力医とは、信頼関係が築かれている。また、内科以外の受診は家族の協力を得ているが、家族に変わって職員が同行することもある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護職のスタッフは居ない。主にスタッフが武村内科医院に相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主にご家族とスタッフ、主治医の先生で話し合っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常生活の様子を正確に主治医に伝え、今後のことも話し合っている。	入居時に、本人と家族にホームの方針を説明し同意を得ている。医療面のケアが難しくなる場合は限界までホームで看ることとし、退所後の受け入れ病院もかかりつけ医・家族と相談しながら決めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。訓練などを実施している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施しているが、夜間などに不安がある。	あらゆる災害を想定し、平屋でありながらさらに避難通路を確保するため、窓を扉にする改修工事をおこなった。火災報知器、通報装置、スプリンクラーも設置されている。今年度は、各ユニットの報知器に、消防署直結の通報システムをつなげる予定である。	避難訓練は年2回実施しているが、ホームの特性上、地域の協力は不可欠と考えられる。近隣住民との協力体制作りを期待すると共に、夜間を想定した訓練の実施も必要と思われる。

グループホーム木かげ 自己評価(こもれび) ・ 評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ている。入居者さん一人ひとりに合って話し方を心掛けている。	入居者の従来の生活環境や性格にあわせて、その人に合った言葉遣いで話しかけるよう心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様子を伺い、それにあった声かけをしている。必要に応じて、「はい・いいえ」で答えられるような声かけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分に出来ているとはいえない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容はしているが、おしゃれの部分はあまり出来ていないので、今後の課題である。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・片付けはスタッフと一緒にしているが、全員の好みはきけてはいない。	材料の仕入れ、献立、調理までを外部に委託しているため、一人ひとりの好みに対応できない部分はあるが、職員はその分の時間を入居者に向き合う時間に当てている。また、庭でランチをしたり、外出に出かけたりして食事が楽しみになるよう工夫したり、庭の畑で収穫した季節の野菜を献立にとり入れたりすることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病・高脂血症・高血圧などの方がいるので、盛り付ける量や、調理方法を工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨き・うがいをしている。		

グループホーム木かげ 自己評価(こもれび)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後を目安にし声かけをしている。他、個々に必要な介助を行っている。(案内・ズボンの上げ、下げなど)	一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけ誘導をしており、入居時におむつだった人が自立した例もある。また、排便はなるべく薬に頼らない考えで飲み物や運動等で様子を見るようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やオリゴ糖などで対応している。他、ホットタオル・マッサージを実施している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合せた時間・タイミングでお誘いしている。	入居者の要望や状態に応じて、昼食後から就寝前までの間で入浴を行っている。入浴を拒む入居者には、声かけの工夫をしながら、どのタイミングでもすぐ入浴できるように朝からお湯を張り対応する場合もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節ごとに、エアコンで室温の管理をしている。他湯たんぼ等の道具も使用していただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが管理している。薬に変更・追加があった場合は様子観察はするが、どの様な副作用がでるか勉強会で話し合っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物の希望がある方は、スタッフ同伴で行く。ご家族様の面会時に持って来て、いただいている事が多い。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と一緒に掛ける事の方が多し。スタッフと一緒に外出は毎日ではない。	近所のコンビニエンスストアや農協への買い物や散歩に出るほか、紅葉狩りがしたい、富士山が見たいという入居者の希望で実現した外出企画も多い。	

グループホーム木かげ 自己評価(こもれび) ・ 評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、スタッフの方で管理している。自己管理している方に関してはご家族様にお話はしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話はあるものの、こちら側からの電話・手紙はあまり行っていない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファを廊下に置き、いつでも座ることが出来る。刺激については、エアコン、カーテンなどで加減している。	中庭を望むリビングの窓は大きなガラス張りで開放感がある。その中庭を自由に散歩できるように手摺りをつけた。また、居室やトイレの入り口には、写真や絵を飾り、場所を間違えないような工夫もしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然に仲の良い方同士で、談笑される事が多く、スタッフがきっかけになっての、談笑が多い。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本、私物を持って入居される。入居後もご家族様と相談して、用意させていただいたり、ご家族様に用意してもらったりしている。(主に衣類)	部屋には大きなクローゼットが備え付けられているため、各居室はすっきりとしている。思い思いに使い慣れた家具や思い出の品などを持ち込み、その人らしい居室になるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	小さなことでも、入居者さんにおいしい手伝って頂いている。また、歩行の邪魔になる物は排除している。		